

I 研修到達目標

1ヶ月コース

1. CT、MRI の読影や特殊なオーダーの出し方。超急性期の落とし穴について学ぶ。
 2. 脳外科入院患者の麻痺の状態を観察し拘縮や亜脱臼、良肢位など片麻痺患者の慢性期の状態を学び在宅診察に生かせるようにする。
 3. 脳外科緊急患者の初期対応を学ぶ。初期点滴、降圧剤の使い方、進行性脳梗塞の予防的2剤抗血小板剤投与など、早め早めの処置で予測して悪化をくいとめる方法を知る。
 4. 脳外科入院患者の生活歴を見ることで内科医として予防の重要性を学ぶ。血圧の管理など。
 5. 寝たきり患者の合併症：誤嚥性肺炎、偽痛風、褥瘡管理を学ぶ。
 6. 睡眠時無呼吸患者の検査、CPAP治療について学ぶ。外来での導入時のノウハウを学ぶ。
- ★手術があれば助手として適時見学してもらう。

2ヶ月コース

7. 慢性硬膜下血腫の穿頭血腫除去の術者になる。
8. 脳室ドレナージ術の術者になる。
9. パスを使って入院から退院まで自分の責任で患者の管理ができるようになる。
10. 救急患者の受入の責任者となり救急隊からの申し送りを受け速やかに診断の手配ができるようになる。急性期のスタッフに対する適切な指示が出せる。
11. 脳外科外来患者を診察し診断を下す。頭痛とめまいについて治療が適切にできる。

3ヶ月コース

12. 開頭手術の開頭器具を使い、開頭ができる。顕微鏡手術の助手ができる。
13. t-PA の必要がある患者を選択し、実施の判断が下せる。
14. 脳波を読むことができる。
15. 認知症患者の背景を理解し、サポート体制をつくることができる
16. 認知症患者の診断と薬物投与を責任を持って行える。
17. 多職種合同カンファレンスでプレゼンテーションや指示ができる。

コースが決まればそれぞれのコースに応じて1ヶ月目でも2ヶ月目でも適切な患者がいれば適時指導します。3ヶ月目になって初めて12-16を行うのではなく最初から3ヶ月いてもらう事を前提として1-16に参加してもらう、という風に考えています。

II 指導医

氏名	卒業年	専門領域	認定医・専門医・指導医等
青木 俊樹	平56年	脳神経外科	日本脳神経外科学会専門医 日本救急医学会救急専門医・認知症サポート医・日本リハビリテーション医学会認定臨床医